

進化する人づくり。



8月3日（金）に開かれた理事会で、稲垣理事長が新しく就任されました。
法学部設立という新たな局面を迎える名古屋学院大学と、若返りを図る同窓会が、
互いにどう関わり、発展していくべきか。
稲垣理事長と木船学長、小川同窓会会長が語り合いました。



価値感が異なる場で 学生の成長を促す。

新しく就任された稲垣理事長に、簡単な自己紹介と、今後名古屋学院大学をどう導いていけるのか、お聞かせいただきたいと思っています。

稲垣理事長（以下理事長） 私は岐阜県土岐市出身です。学生時代に環境について研究し、愛知県庁に入って大気・水・廃棄物ほか、多彩な分野に携わりました。愛知県副知事を2006年から4年間務め、名古屋競馬株式会社に勤務しまして、今年、学校法人名古屋学院大学理事長に就任いたしました。

名古屋学院大学をどう導いていくかですが、財界の方と話をすると、今の大学生には自主的な考えを持った人が少ないとよく言われます。ですので、自分の考えをしっかりと持てるような人材を育てていきたいと考えています。

具体的にはどのような教育が有効だとお考えですか。

理事長 問題提起をしていくことではないでしょうか。今の大学は「教え込む」ということが多いような気がします。そうではなく、少人数で意見交換をし、その中で自分の考えを主張していく。学生にそういった機会を多く与えるべきです。

小川会長（以下小川） 今の大学生は真面

目すぎる面があり、自己アピールができない人が多いと聞いたことがあります。理事長のお話のように、個性的な学生を育てていくことが必要ではないかと感じますね。

木船学長（以下学長） 名古屋学院大学では、地域を教材とし、フィールド型の授業を行っています。学生が地域の人と共に具体的な課題に取り組みながら、失敗を経験して学んでいくのですが、そういった授業がもつと必要なのかなと思いますね。

知識を得て、消化することに加え、自分で考える力を身に付けていかなければならない。そのための訓練の場を、どれだけ大学が用意できるかが重要になってきます。

フィールド型の授業のほか、海外留学も大きな学びになるのではないのでしょうか。また、ボランティアとして必要とされる場合、実際にいくことも、学生の成長につながります。価値観が異なる場所へ行くと、気づ



学校法人 名古屋学院大学 理事長
稲垣 隆司



同窓会 会長
小川 博司